

モモの収穫前管理

県北農林事務所伊達農業普及所

JAふくしま未来伊達地区モモ生産部会

せん孔細菌病の二次感染を防ぐため、り罹病部位の除去を徹底しましょう！

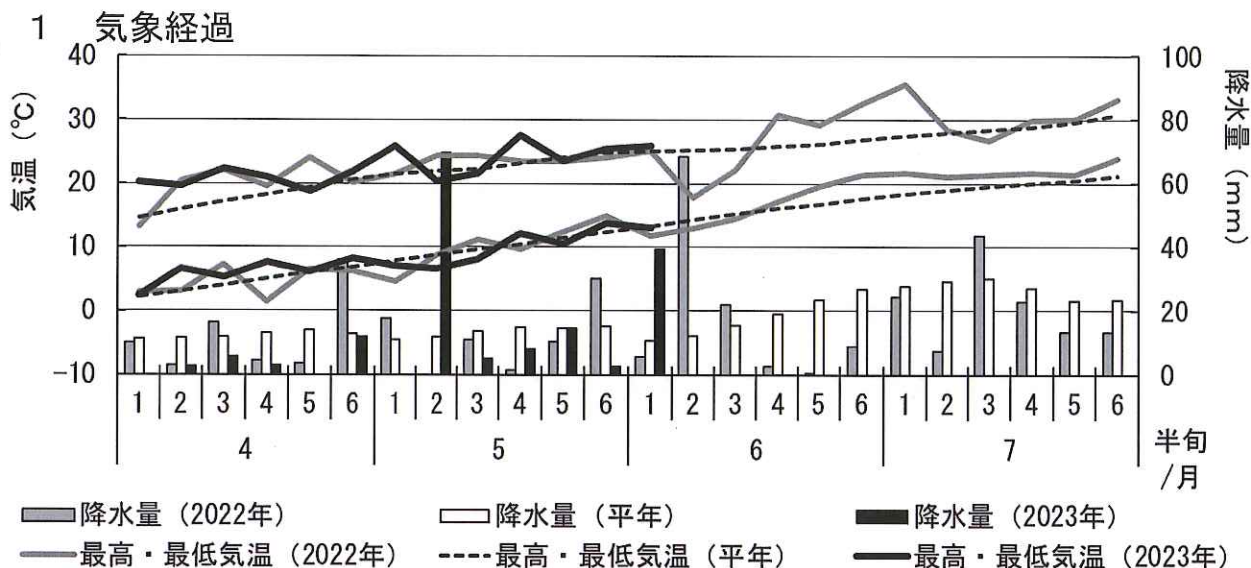


図1 気温と降水量の推移 (観測地点：伊達市梁川町)

2 生育概況

(1) 果実肥大状況 (伊達農業普及所)

6月1日における調査ほ場 (桑折町伊達崎) の果実肥大は、満開後日数の比較では、「あかつき」の縦径は平年比100%、側径は平年比112%と平年よりやや大きい (表1)。「川中島白桃」の縦径は平年比96%、側径は平年比103%と平年並であった (表2)。

表1 モモの果実肥大 (桑折町伊達崎、6月1日調査)

品種	果実肥大 (mm)		平年比 (暦日比較、%)	
	縦径	横径	縦径	横径
あかつき	45.8	40.9	100	112
川中島白桃	42.0	34.9	96	103

(2) 「あかつき」の新梢生長 (農業総合センター果樹研究所) (表2)

満開後50日 (5/25) における新梢長は平年比56%と短く、展葉数は平年比83%と少ない。葉色は平年比101%で平年並、新梢停止率は0%で平年より遅れている。

表2 モモの新梢生育（農業総合センター果樹研究所、満開後50日）

	新梢長 (cm)			展葉数 (枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	5.7	10.1	56%	10.9	13.2	83%
ゆうぞら	7.0	11.1	64%	12.2	13.2	92%
	葉色 (SPAD)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	42.3	42.0	101	0.0	28.2	0
ゆうぞら	42.2	41.6	101	2.5	28.6	9

(3) 「あかつき」の核障害（農業総合センター果樹研究所）（表3）

満開後55日の核頂部亀裂は15.0%であり、平年より少ない。

表3 核障害の発生状況（農業総合センター果樹研究所、単位：%）

年	核障害の種類	満開後日数			
		30日	45日	50日	55日
2023	核頂部亀裂	17.0	35.0	30.0	15.0
	縫合面割裂	0.0	0.0	0.0	0.0
2000 ~2020	核頂部亀裂	35.1	37.1	45.5	51.9
	縫合面割裂	0.0	0.0	1.7	2.4

(4) 「あかつき」の硬核期開始日（農業総合センター果樹研究所）（表4）

硬核期開始日は、5月31日で平年より9日早かった。

表4 「あかつき」の硬核期開始（農業総合センター果樹研究所）

	本年	平年	昨年	平年差
あかつき	5月31日	6月9日	6月7日	9日早い

(5) 「あかつき」の収穫期予測（表5）

6月3日現在の桑折町伊達崎地区における収穫期予想は、収穫始めが7月16日、収穫盛りが7月21日で、ともに平年より14日早い見込みである。なお、収穫期は今後の気象により左右されるので、果実の成熟状況に注意する。

表5 収穫期予想（桑折町伊達崎）

	開花盛	生育日数	本年予想	平年	昨年	平年差
収穫始め	4月5日	102日	7月16日	7月30日	7月25日	14日早い
収穫盛り		107日	7月21日	8月4日	7月30日	

※生育日数：開花盛～収穫期までの日数

3 今後の管理作業

現在「あかつき」の硬核期中ですが、核障害は少なく経過しています。硬核期が終了しても核障害が少ない場合、修正摘果は小玉果や病虫害被害果などを中心に実施しましょう。

(1) 修正摘果

6月下旬以降（硬核期終了後）、小玉果や核障害に伴う変形果や異常成熟などが明らかになった果実、病虫害の被害果を対象として、修正摘果を数回に分けて実施する（写真1）。

下記のような症状が見られる果実は、核や胚に障害があることが多いため、摘果する。

核や胚の障害が疑われる症状

- ・ 果頂部が変形
- ・ 縫合線が深い
- ・ 果面からヤニが噴出
- ・ 果頂部の着色が早い、など



写真1 病害果

(2) 夏季せん定（図2）

硬核期が終了した後に、日光および薬液の透過性の改善、および樹勢のコントロールを目的として、修正摘果と平行して実施する。

樹冠内部を中心に、主枝、亜主枝の背面や大型側枝の基部から発生した旺盛な徒長枝を、基部の成葉4～5枚（約5cm）を残してせん除する。

着果数を多めに残している樹冠上部（特に主枝・亜主枝先端部付近）は、衰弱を防ぐため、夏季せん定を実施せず、発育枝を多めに確保する。

新梢伸長の停止が遅い場合は、夏季せん定の実施時期を遅らせる。また強樹勢樹では、徒長枝の発生も多いため、せん定量は多めにする。

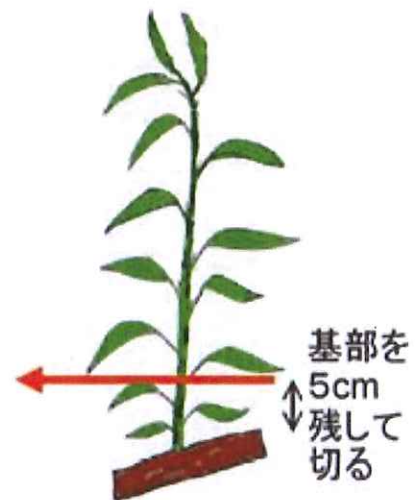


図2 夏季せん定の方法

(3) 着色管理

枝吊り・支柱立ては、収穫前14日頃までに随時実施するが、凍霜害などにより上部の着果量が多い樹は、枝折れしないよう遅れずに実施する。

反射シートは、アルミ蒸着（シルバー）シートの場合収穫前7～10日頃までに、白色系シート（パールライトなど）は収穫前14日頃までに敷設する。

収穫期の高温により、日焼け果の発生が懸念される場合は、白色系シートを使用する。

(4) 有袋栽培の管理

除袋は、果実の地色にやや緑色が残る時期が適期である。

紙製着色袋（SK-2など）では収穫前10日頃、二重袋（ぱりっと撥水ミニ等）の外袋除袋は収穫前14日頃が除袋時期の目安である。これらの目安日の前にいくつか試しに除袋し、果実の成熟度を確認してから本格的な除袋を行う。

(5) 葉面散布（表6）

樹勢が強い場合や新梢停止が遅れている場合は、リン酸主体の葉面散布剤を使用する。

表6 葉面散布剤の使用法

商品名	使用場面	樹齢	農薬との混用	展着剤の加用
葉友	梅雨期が長い（低温・日照不足が続く）場合。	若木	○	△
ペンタキープ		成木～老木	△	○
メリット赤	新梢停止が遅れている場合	—	○	×

4 病害虫防除

(1) 病害

ア モモせん孔細菌病

梅雨期に入り降雨日が多くなると感染が増加し、発病部位から二次感染による感染が拡大するおそれがあるため、り病部位の除去や薬剤散布を徹底する。

イ 灰星病、ホモプシス腐敗病

収穫直前は、灰星病、ホモプシス腐敗病等の重要防除時期である。薬剤散布を徹底するとともに、二次感染を防ぐため、灰星病の被害果は、ほ場外に持ち出して処分する。

(2) 虫害

ア カメムシ類

山間部や山沿いのほ場では、カメムシ類の飛び込みに注意し、複数個体の飛来が見られた場合は速やかに防除する。

イ ナシヒメシンクイ

新梢の芯折れなどが多発している園地では、果実被害を防ぐために防除を徹底する。

(3) その他

農薬散布は、JAの果樹病害虫防除暦を参考に、最新の農薬登録情報を確認したうえで実施する。また品種が混在しているほ場は、収穫が早い品種に対する収穫前日数に、十分注意する。

令和5年産「あかつき」の収穫前管理スケジュール

※ 日程はあくまで目安とし、最新の気象情報や各ほ場における生育を確認して作業する。

◎収穫開始予想日：7月16日(6月1日現在)

時期	管理作業	ポイント
6月下旬以降 随時	修正摘果	<ul style="list-style-type: none"> ・硬核期終了後に実施する ・数回に分けて修正摘果を実施する ・果実肥大や果形に注意して実施する
	夏季せん定	<ul style="list-style-type: none"> ・修正摘果に合わせて実施する ・樹冠内部や主枝、亜主枝の背面から発生した徒長枝を成葉4～5枚残してせん除する ・過度に実施すると日焼けなどの枝幹障害、新梢の二次伸長の原因になるので注意する
7月2日頃まで	枝吊り・支柱立て	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前14日頃までに実施する ・主枝、亜主枝の先端を下げないようにする ・日光が下枝まで届くように枝の間隔を空ける
	反射シート敷設 (白系反射資材)	<ul style="list-style-type: none"> ・白系反射シートは収穫前14日頃までに敷設する ・収穫終了後は速やかに反射シートを撤去する
7月2日頃	外袋除袋 (ぱりっと撥水ミニ)	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前14日頃に実施する ・果面の地色にやや緑色が残る時期に、遅れずに実施する ・有袋栽培では除袋後に修正摘果を実施する
7月6日頃	除袋 (SK-2)	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前10日頃に実施する ・作業が遅れないようにする ・有袋栽培では除袋後に修正摘果を実施する
7月6～9日頃まで	反射シート敷設	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー系シートは、収穫前7～10日頃までに敷設する ・収穫終了後は、速やかに反射シートを撤去する

令和5年度「川中島白桃」の収穫前管理スケジュール

※ 日程はあくまで目安とし、最新の気象情報や各ほ場における生育を確認して作業する。

◎収穫開始予想日：8月5日（6月1日現在）

日程の目安	管理作業	ポイント
7月21日頃 まで	枝吊り・支柱立て	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前14日頃までに実施する ・主枝、垂主枝の先端を下げないようにする ・下枝まで日光が届くようにする
	反射シート敷設 （白系反射資材）	<ul style="list-style-type: none"> ・白系反射シートは収穫前14日頃までに敷設する ・収穫終了後は速やかに反射シートを撤去する
7月21日頃	外袋除袋 （ぱりっと撥水ミニ）	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫前14日頃に実施する ・果面の地色にやや緑色が残る時期に、遅れずに実施する ・除袋後に修正摘果を実施する
7月26日～ 7月30日頃 まで	反射シート敷設	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー系シートは、収穫前7～10日頃までに敷設する ・収穫終了後は、速やかに反射シートを撤去する

◎収穫した果実に土などが付着しないよう、収穫かごやコンテナの取り扱いには十分に注意しましょう！

◎農作業中の熱中症に注意しましょう！

◎農作業事故に注意して作業を進めましょう！

◎農薬は、ラベルをよく確認して使用しましょう！

◎農薬散布後は、忘れずに防除日誌へ記帳しましょう！

◎農薬散布は、隣接する作物に飛散しないように注意しましょう！

◎適切な生産工程管理のためにGAPシートで確認しましょう！

◎気象災害に備えるため、収入保険への加入を検討しましょう！